

翻訳サービス駅に続々

増加する訪日外国人観光客（インバウンド）の利便性向上のため、鉄道各社が駅で翻訳サービスを導入する動きが関西エリアで広がっている。阪神電気鉄道は昨年9月、日本語、英語、中国語、韓国語対応の小型端末を使った接客を神戸三宮や梅田など6駅で開始。JR西日本も同3月から姫路や京都など5駅で4カ国語対応の放送を始めており、今春までに三ノ宮駅などさらに12駅で導入するという。

（大島光貴）

訪日客急増で不可欠に



阪神電鉄が導入した多言語音声翻訳サービス。持ち運びやすい小型の端末が特長だ。神戸三宮駅

阪神 会話可能な小型端末 JR西 5駅で4カ国語放送

阪神電鉄の「多言語音声翻訳サービス」は、スマートフォンより小さな端末に話しかけると画面に翻訳文が表示され、音声も出て、双方向の会話が可能。NIECのシステムで、訪日客が比較的多い神戸三宮や魚崎、九条など6駅で始めた。神戸三宮では、多い日で5、6件の利用があり、乗り換えの質問が多いという。担当者は「駅員の語学力や身ぶり手ぶりでは伝わらない場合もある。端末があると安心して話す。」

阪急電鉄も昨年3月、タブレット端末での翻訳サービスを西宮北口や神戸三宮、河原町など28駅で開始。端末を放送設備につなぐと、スピーカーで利用客に一斉に伝えることもできる。

各社が導入する背景には訪日客の急激な増加がある。阪神、阪急両社は1、2日間有効な外国人客向け全線フリー乗車券を2017年度に約45万枚販売。3年度で約3・5倍に伸びた。一方、JR西の「多言語

屋駅や浜松駅、高山線の高山駅（岐阜県）など12駅に納入。駅員がタブレット端末で専用アプリを操作すると、日本語と英語で案内放送ができるシステムで、今後、JR東海の在来線の駅や車両内への導入を目指すとしている。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名前

① 関西エリアで鉄道各社が翻訳サービスを導入する動きが広がっている理由はなんですか。

② 阪神電鉄の「多言語音声翻訳サービス」の小型端末で利用できる4つの言語を書きましよう。

③ 阪急電鉄が昨年3月から始めたタブレット端末での翻訳サービスは、いくつの駅で開始されましたか。

駅

④ JR西「音声翻訳放送システム」について説明している部分を抜き出して書きましよう。
